



JAPIC NEWS

contents

■ 巻頭言

A Perfect Drug

一般財団法人 日本医薬情報センター 会長 寺田 弘 2

■ インフォメーション

1月末発売!

JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2020年1月版」..... 4

第39回 医療情報学連合大会 に出展しました

■ コラム

くすりの散歩道No.134「中二病とくすり」

(一財)日本医薬情報センター 開発企画担当 データ管理課 織戸 進太郎 5

■ トピックス

JAPICサービスの紹介

⑩ JAPIC AERS 6

■ 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報よりー(抜粋)..... 10

■ 図書館だより No.355 11

■ 情報提供一覧 11

1

January
2020
No.429

JAPIC
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

巻頭言

kantohgen

A Perfect Drug



一般財団法人 日本医薬情報センター 会長

寺田 弘

Terada Hiroshi

皆様、新年明けましておめでとうございます。ご家族共々、気分を新たにして新しい年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。昨年、令和元年が始まったと思っていましたら、もう次の年がスタートしてしまいました。本当に時間の経つのは早いものだと感じ入っております。世の中の動きが速くなっていることと関連して、医薬情報に関してもいろいろな動きが見てとれます。医薬情報の提供組織であるJAPICも、きちんとそのような動きに対応して活動していかないといけません。本年もこれまでも増しでお力添え頂きますようお願い申し上げます。

ところで、医薬品は治療目的のための薬理作用を持つことによってその存在が保証されております。しかし、それとともに副作用がどうしても生じてしまうという負の側面を持っております。もし、主作用である薬理作用のみを発現しながらも、いかなる状況にあっても副作用が生じない医薬品が存在するならば、その医薬品は完全無欠な薬perfect drugであると見なすことができるでしょう。一つの方策として、病変部位に存在している疾病の原因となるタンパク質や遺伝子にのみ特異的に結合するような化合物を開発することができるならば、その目的を達成することができるはずですが、しかし、このような分子標的機能を持つ医薬品の場合でも実際には重篤な副作用がいくつか現れてきていることはご承知のとおりです。

副作用が複雑多岐にわたっているもう一つの原因として、いくつもの医薬品を併せて服用していることがあげられるでしょう。生理的な状況や病状は全ての患者に同一ではなく、個々の患者によって異なっているので、それぞれの医薬品の副作用の発現も多岐にわたるはずですが、しかも複数の医薬品の服用は、状況をさらに複雑なものにし、想定したものと異なったものになります。このような状況に迅速に対応できる情報をJAPICは提供する必要があります。アメリカ合衆国の中毒センター（Poison Control Center）は、365日、24時間対応の化学物質や医薬品による中毒に対処する代表的な機関です。我が国では、日本中毒情報センターが中心になって活動していますが、未だ小規模な活動に留まっているのは残念なことです。

医薬品の情報においてどうしても考慮に入れておかないといけないことの一つに薬効に対する心理的な効果があります。新薬開発の際に行われる臨床試験においてコントロールとして用いられる疑似薬品（プラセボ）に一定の薬理効果が見られるのがプラセボ効果です。プラセボは偽薬と否定的な意味で

もって称されることが多いのですが、本来はラテン語の“私は楽しませる I shall please”と肯定的な意味を持っています。期待を持たば病気は治るということなのでしょう。ウイルス性の風邪に抗生物質が効いているなどはその典型例です。

プラセボ効果が存在することは古代ギリシャ時代から知られていましたが、これに関する科学的な興味を持たれ始めたのは1970年代からのようです。比較的最近のことですが、著名な科学誌に“A Perfect Drug”と題する興味深い小文(Dan Erlanson, Nature 471巻672ページ 2011年)が掲載されていたのでその概要を紹介してプラセボのことをもう少し考えて見たいと思います。この小文は、“Futures”という欄に掲載されたものですので科学論文ではなく医薬品の将来像に関する一つの未来像を提案したものであると見なしてよいでしょう。

ある中規模の製薬会社が最近paxpharmaという抗うつ剤を上市しました。この薬の抗うつ剤としての効果は他の市販品のそれと同等なのですが、副作用が見られないという特徴があります。ある日、この会社の重役会でオーナーは役員を前にしてpaxpharmaに関する2つの事項に関して報告しました。「一つは良い知らせでもう一つは問題点です。良い知らせはpaxpharmaの評判が良く、発売して以来18ヶ月間の売り上げは上々であるということです。しかし、問題点がいくつかあります。その最大はpaxpharmaの原薬は複雑な化合物であるので、合成するのに非常に手間と経費がかかること、売り上げの増大に伴いpaxpharmaの製造施設や新しいパイプラインを構築する必要があること、それに利益追求の株主の期待も重荷となります。」そこで、オーナーはこれらの問題点を解決するためにとって来た処置を打ちあげます。「じつは、paxpharmaとして、これと外観は同じ糖の錠剤sugar pillを製造してこれをpaxpharmaとしてこれまで販売してきました。経費もかからず市場の評判も副作用がないということで極めて良好なので、このsugar pillをpaxpharmaとしてこれからも販売していきたい。ただし、本当のpaxpharmaも小規模ながら製造は続けます。」この報告を聞いて役員達は啞然として声もありませんでしたというお話です。

この小話には“What you don't know can help you”という副題がついております。プラセボだと知らないで服用すると効きますよということなのでしょう。しかし、著者が本当に言いたいのは、知らないことを知ることによって新しい展望が開けるといふ風に解釈したいものです。効き目があって副作用がない医薬品を安価につくることが医薬品にとって重要で、プラセボはperfect drugになるであろうという提言なのでしょう。

プラセボ効果はある種の信号を私たちが受け取ったことに基づいています。上述の例では、

paxpharmaは良く効く抗うつ剤であるという評判が信号になっています。一般的には医療現場における診断や助言が、これに相当します。この効果は、単に“偽薬”でも薬効があると言うばかりではありません。薬剤師によるアドヒアランスのための活動によって、医薬品が持っている薬理効果を十二分に発揮させることができるようになるということにも注目すべきことだと思います。

私は、プラセボ効果のような心理的な力は基本的には錯覚に基づいていると思っておりました。しかし、そのような解釈は十分なものではないことに気がつきました。なぜなら最近になってプラセボはプラセボであると知らないで服用しても薬効があるばかりでなく、プラセボであると知って服用しても効果が見られるということも知られるようになってきたからです。そのために、プラセボであることを明言してプラセボを発売する企業も設立されました。その名はズバリ、プラセボ製薬株式会社(水口直樹 “僕は偽薬を売ることにした” 国書刊行会 2019年)。この企業の業績はどのようなものになっているかは知りませんが、認知症高齢者や睡眠障害者などを当面の対象にしているようです。そればかりか、将来は高騰する医療費の削減にも大きく寄与できるようにしたいという壮大な意図を打ち出しています。

プラセボ効果が私たちの錯覚に基づいているばかりではなく、さらに未知の力が働いているならば、研究室で得られる薬理効果とは一体どのようなものなのでしょう。実験に用いられている小動物にも心理的な効果を加味しないといけないのでしょうか。心理的な効果と薬理作用との関係、臨床現場における医薬品の効果発現の機構などを総合的に明らかにするためには、従来とは異なった視点で取り組む必要があります。そのために、薬効心理学という分野の研究が大切であると思っています(寺田 弘 薬効学 79巻1-5ページ 2019年)。

私たちは、三角形の内角の和は180度であるということは常識だと思っておりますが、これは平面か円筒状での話で、球形では180度以下、他の形の世界では180度以上になる場合もあるそうです(マックス・テグマーク 谷本真幸訳 “数学的な宇宙” 講談社 2016年)。また、大乘仏教では対立する二つのものは根本的には一つであることを生死不二というそうですが、この概念は“治療薬”と“偽薬”という二つの“薬”の作用の本質は何かということを考える際に大切だと思います。このように、プラセボ効果を明らかにすることは、医薬品の作用機構を解明し、その情報を処理するうえで非常に重要であるはずです。

このように医薬品の作用に関する多面的な情報をJAPICは一層努力して医療従事者に提供していきますので、有益なご助言や忌憚のないご批判を今後とも頂ければ幸いです。

1月末発売!

JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2020年1月版」

- ◇医療用および一般用医薬品の添付文書情報を収録したWindows対応CD-ROM。
(医療用は2020年1月、一般用は2019年12月までのJAPIC入手分を収録)
- ◇製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。
データ出力形式は、タブ区切り／カンマ区切りテキスト(csv)から選択できます。
- ◇薬価、先発品等／後発品情報、規制区分、剤形、添加物、
薬剤識別コード情報なども収録し、さまざまな角度から検索できます。
- ◇完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現。
インターネット環境のない薬剤モニタリング業務などにも最適です。
- ◇インターネット経由で、最新の添付文書PDFの表示も可能です。
(医療用：週1回更新、一般用：月1回更新)

- ◆価格：単回13,000円(+税)
年間セット4枚(1月・4月・7月・10月) 23,806円(+税)

〈お問合せ先：事務局 業務・渉外担当 TEL：0120-181-276〉



第39回 医療情報学連合大会に出展しました

2019年11月21日(木)から24日(日)にかけて、千葉市幕張メッセにおいて開催された第39回医療情報学連合大会に出展しました。日本医療情報学会は医療情報に関心を持つすべての研究者及び実務担当者の学術交流の場として、昭和58年(1983年)に設立されました。本学会は、年に2回大きな学術集会【日本医療情報学会秋季大会(医療情報学連合大会)、日本医療情報学会春季大会(日本医療情報学シンポジウム)】を開催しており、JAPICでは定期的に医療情報学連合大会の企業展示に出展しています。

今年の連合大会のメインテーマは「IoT時代の医療情報の利活用」とし、11のチュートリアルに学会長講演や大会長講演等の15の企画講演、3つの公募シンポジウムに12の公募ワークショップ、そして25の一般口演が予定され、盛況な学会でした。

今回の出展ではJAPIC添付文書情報関連データを中心に、医薬品と対応病名検索システム“病名ナビ”、院内採用医薬品集作成システム「JAPIC PIA」を展示いたしました。展示ブースでは相互作用や禁忌データ等の医療用医薬品添付文書関連データのご質問をいただきました。

JAPICでは、定期的に学会の企業展示に出展しております。お出かけの際はお気軽にお立ち寄りください。多くの方々のご意見やご要望をお伺い出来ることを楽しみにお待ちしております。



くすりの散歩道

no.134

中二病とくすり

(一財)日本医薬情報センター 開発企画担当 データ管理課
織戸 進太郎 *Orido Shintaro*



僕は、中学生の頃「中二病」だった。

中二病とは思春期にありがちな妄想や思考を指すネットスラングだ。現在ではさまざまな分類が報告されているが、大人になって思い返すと赤面すること、この上ないという点が共通ポイントだ。僕はいわゆる、オカルト系中二病だった。当時は雑誌『ムー』を愛読し、マンガ『孔雀王』を読んで九字印の結び方を覚えた。やがて、五島勉氏による著書『ノストラダムスの大予言』により、オカルト系最大イベント「1999年7の月」がやってくることを知る。ざっくり言うと、1999年7月に人類が滅亡するというものである。これは、マンガ『MMR』のキバヤシの発言によっても裏付けられていた。それ以降、僕は1999年7月以後をどうやって生き抜くかが人生の行動原理となっていく。そして、マンガ『サバイバル』を読んでナイフの重要性や、ネリカン式マッチで火を起こす方法を学んだ。また、生存確率を上げる重要な要素として医療に関する知識、とりわけ病気を治す薬に関する知識が重要だと感じ、僕は薬学を学ぶことを選んだ。その薬学部で学んだことは、「正確には薬が病気を治しているわけではない」ということと、「薬を作るための化学の基礎“分離・精製・検出”には精製された原料や溶媒、適切な素材で作られた実験器具、文明の利器である分析機器の存在が不可欠」だとわかった。つまり、そんなところの台所や、ましてや人類滅亡後の荒廃した世界では、経絡秘孔で人は治せても薬を作ることほとんど不可能なのだ。そうこうしているうちに、1999年8月は無事訪れた。めでたしめでたし。

現実には人類は滅亡しなかったが、空想科学の世界ではこういったシミュレーションの例がある。例えば週刊少年ジャンプで現在連載中のマンガ『Dr.STONE』に於けるサルファ剤の合成である。『Dr.STONE』は「全人類が、謎の現象により一斉に石化したその数千年後、突如目覚めた天才高校生 千空（センクウ）が、科学の力で文明を取り戻して人類を救う」というストーリーなのだが、その中で肺の病に侵されている少女 ルリを助けるため

にサルファ剤を合成する件がある。これがまた、薬学マニアが見ても丁寧な描写で、薬品を調達するために発電機を作って電気分解したり、薬剤耐性の高いガラス器具を作ったり、有毒な液体を入手するためにガスマスクを作ったりと「^{そそ}うるぜこれは!」な要素でんこ盛りなのだ。もう1つ忘れてはいけないのが、マンガ『JIN-仁』(じん)に於けるペニシリンの精製である。『JIN-仁』は現代の脳外科医 南方 仁(みなかた じん)が、幕末にタイムスリップし、運命や歴史を変えていることを自覚しながらも、現代医療の知識を使って人々を救う物語である。これもまた、漢方医の言うことを真っ向否定してコレラ患者を救ったり、切腹は死という武士をなだめて開腹手術をしたり、擦った揉んだあるのだが、その中で梅毒にかかった花魁を救うために、青カビからペニシリンを抽出・精製するエピソードがある。こちらは、油や水溶液の液性を利用してペニシリンを抽出し、炭のろ過装置で分離した溶液のうちペニシリンを含む箇所をブドウ球菌で特定するなど、ギリギリ台所でもいける手法になっている。

どちらがより現実的だろうか?イソニアジド(サルファ剤)の合成は、中間生成物の分離精製(同定)をどこまでできるか?ペニシリンは精製までなんとかかなりそうだが、アレルギーがあること、注射針の調達ができるか?が課題になりそうだ。

こんな絵空事に何アツくなってるの?と考えている諸君に悲報だ。マヤ暦によると「2020年3月20日に人類が滅亡する」ことになっているのだ。残された時間はあまり多くないが、さしあたって尿酸値とコレステロールを下げる薬の合成経路を調べておくことにしよう。



—医薬品・医療機器等の適正使用に役立つ品質・有効性・安全性に関する情報提供サービス—

10 JAPIC AERS

医薬品

国内

海外

安全性情報

■ FAERSデータとJADERデータを基に、データ提供サービスおよびシグナル検出をはじめとする代行分析サービスを行っています。

① データ提供サービス（JAPIC FAERS データ） 原則年4回

FAERS データの重複を削除し、有害事象名は最新バージョンの MedDRA 用語（基本語）に振り替え、医薬品名には成分名、ATC（WHO anatomical therapeutic chemical classification）分類コードを付与し、解析しやすい形式に整えて提供します。年齢の記載方法、投与期間、体重等の単位も統一して補正しています。1997 年第 4 四半期～現在までのデータを提供します。



② 代行分析サービス 随時

② -1. 「JAPIC FAERS データ」及び「JADER データ」を使用してご要望に応じた調査・解析を行い結果を提供します。

① ご要望に応じた安全性シグナルの検出

- ・ご要望を丁寧に伺った上で、JAPIC で調査・解析を行います。
- ・医薬品名はブランド名、成分名、ATC 分類コードから、有害事象は MedDRA の PT、SOC、SMQ レベルから選択いただきます。シグナル検出手法として、PRR、ROR、GPS 法から選択いただきます。
- ・結果はXLSX形式またはご要望に応じたフォーマット、または専用のビューアにて提供します。

② その他調査・解析

- ・症例数の集計やデータの抽出等もお受けします。

② -2. 代行分析サービスの特長

- ・JAPIC FAERS 及び JADER データとも、同じプラットフォームで解析いたしますので、結果の比較も可能です。
- ・シグナル検出結果は、ビューアを使用することにより、原疾患、年齢、性差等の背景因子、時系列でのシグナル値の推移、ヒートマップでシグナル値の高い有害事象をグラフ等で視覚的に確認することができます。
- ・別途社内に解析ソフト等の環境整備を行う必要はありません。
- ・解析方法や結果の解釈まで、専門のコンサルタントがご相談に応じます。

シグナル検出

不均衡分析によるシグナル検出を行い、結果をご提供します。



その他調査および解析

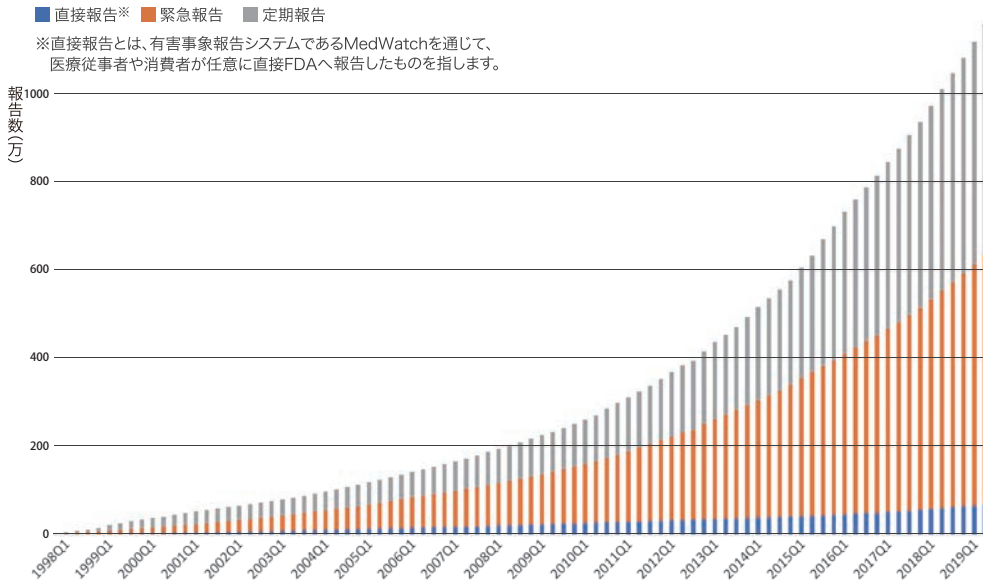
シグナル検出以外に、症例の抽出や集計などもお受けします。



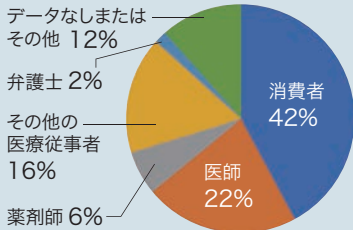
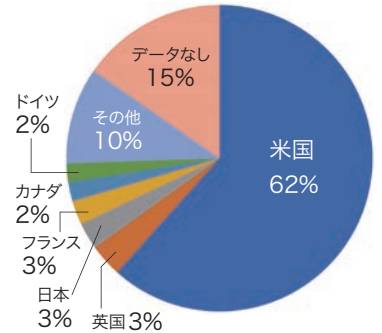
FAERS とは

- FDA Adverse Event Reporting Systemの略。米国FDAの製造販売後安全性サーベイランスを目的に設計された有害事象自発報告データベースです。
- 報告対象の医薬品は米国で承認された全ての医薬品で、報告者は医師、薬剤師等医療関係者だけでなく、消費者、弁護士も含まれます。
- 国別では米国が大半を占めますが、英国、日本、フランス、ドイツなど米国以外の国からの情報も含まれています。
- FAERSデータは7つのテーブルで構成され、ASCIIまたはXML形式のファイルでダウンロードすることができます。
- 一度に約30~40万症例が更新され、1997年から2019年第2四半期現在、約1160万症例(重複削除後)が蓄積されています。
- 更新頻度は年4回(四半期毎)です。

■ FAERSにおける報告症例数(累積)の推移 (1997年第4四半期~2019年第2四半期)



■ 国別の報告割合



FAERSにおける報告者別*にみた報告数の割合

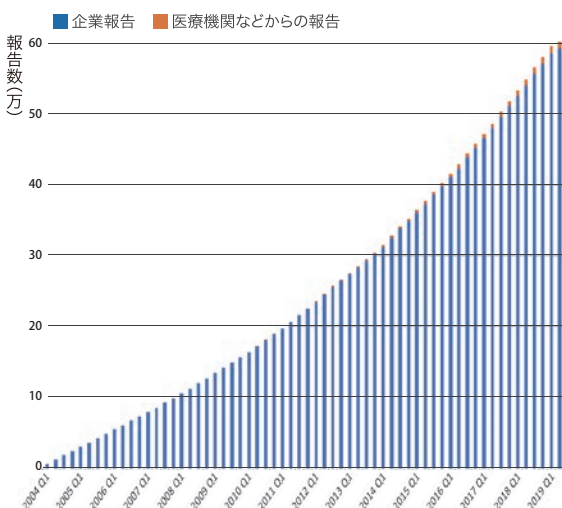
報告症例数は年々増加傾向にあり、現時点の総件数は約1160万症例です。緊急報告(15日報告)以外に定期報告と直接報告も含まれます。FAERSデータの主な報告者は消費者であり、次いで医師や医療従事者の割合が大きいです。米国における有害事象報告の収集は製薬企業主導で行われるため、これらの報告者による報告は企業を経由してFAERSに集積されると考えられます。

*ここでの報告者とは、FDAに報告を提出した人、あるいは企業に報告を提出した人(最初にFDAに報告し、その後FDAから企業に確認を行った報告も含む)を指します。

JADER とは

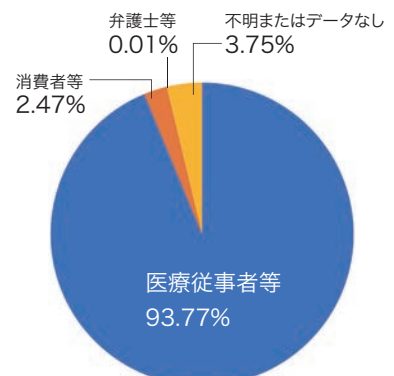
- 「Japanese Adverse Drug Event Report database」の略。PMDAが「副作用が疑われる症例報告」に関する情報を医療機関、薬局および製薬企業から収集し、データベース化し、そのデータをWEB上で公開しているものです。なお公開される症例は重篤症例のみに限定されています。
- JADERデータは4つのテーブルで構成され、それぞれCSV形式のファイルでダウンロードすることができます。
- 4つのテーブルとは、症例一覧(demo)、医薬品情報(drug)、副作用(reac)、原疾患(hist)のことで、「識別番号」をキーとして、症例一覧(demo)に対して他のファイルがそれぞれ1対多の関係でリレーションします。
- 2004年4月のデータから収載されており、症例一覧(demo)の件数は2019年11月現在約60万症例です。
- 更新頻度は月1回です。

■ JADERにおける報告症例数(累積)の推移 (2004年第1四半期~2019年第2四半期)



JADERにおける報告数は、1四半期毎に約1.5万件前後で増加しています。報告の殆どが企業からの報告です。

■ JADERにおける報告者別の報告割合



医療従事者には、医師、薬剤師、その他の医療関係者を含みます。医療従事者からの報告には、企業を経由しているもの、医療従事者が直接PMDAへ報告したものを含みます。

JAPIC AERS の活用

医薬品安全性監視業務のための情報ツールとして

- 医薬品の有害事象出現傾向の把握等にご利用いただけます。
- 医薬品リスク管理計画（RMP）の作成に当たって、重要な潜在的リスクの特定に役立ちます。
- 自社品目だけでなく他社製品を含めた解析が可能であり、同種同効薬における安全性プロファイルを把握することができます。
- 開発業務では、すでに上市されている類薬との有害事象発現傾向を比較することにより、開発過程にある医薬品の安全性における参考資料として利用できます。

参考：JAPIC AERSビューアの機能（次ページ画面例も参照ください）

データー一覧	対象医薬品と対象有害事象の組み合わせにおけるシグナル検出結果が表示されます。
ISR 一覧表示	データー一覧で選択した対象医薬品と対象有害事象の組み合わせについて、基となった症例の情報を表示します。 イベント発生日、性別、年齢、併用薬等の情報が表示されます。
ケースカード表示	ISR 一覧表示における症例を、さらに一症例毎に参照できるようにしたものです。 併用薬及び原疾患、性別、年齢等が参照可能です。
背景因子グラフ	性別、年齢、被疑薬レベル、転帰、併用薬、原疾患をグラフで参照することができます。
性別分析	データー一覧表示で選択した対象医薬品と対象有害事象の組み合わせについて、併用薬（成分）と原疾患の情報を男女別グラフで表示します。
ボックスプロットグラフ表示	シグナル値をSMQ 単位でまとめて見られるようにしたものです。SMQ を用いて有害事象の概念をまとめることにより、PT（基本語）より上位で有害事象の全体像を見る事ができます。
ヒートマップ表示	シグナル値を色の濃淡で表したものです。シグナル値が高い場合は濃い色で表示されます。
時系列グラフ表示	四半期ごとにシグナル値の推移をグラフに表したものです。 時系列グラフとともに報告者（消費者、消費者以外）の割合もわかります。

お申込み方法

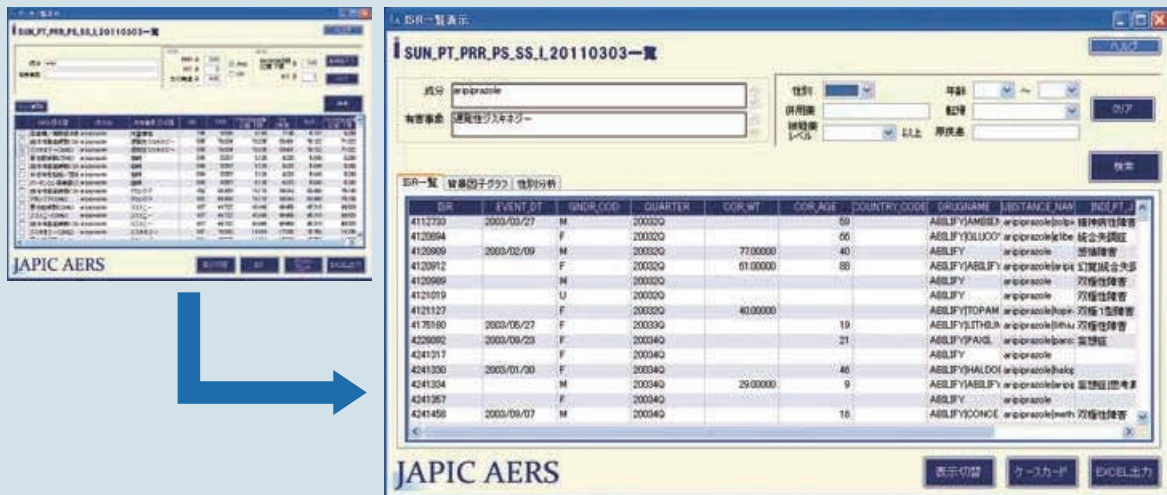
- JAPIC ホームページ JAPIC AERS お申込書フォームをダウンロードし、必要事項をご記入の上、下記メールアドレスに送信してください。ご不明な点は下記までご連絡ください。

<https://www.japic.or.jp/service/information/jarea.html>

開発企画担当 TEL : 03-5466-1837 FAX : 03-5466-1818 E-mail : japic-aers@japic.or.jp

解析結果は一覧表 (XLSX形式) 以外に、専用のビューアにてご提供が可能です。

シグナル値算出の基になった症例情報の詳細な確認



性別、年齢、併用薬、原疾患といった患者の背景情報を視覚的に確認



外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より－(抜粋)

2019年11月1日～11月30日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No. 726-729) の記事から抜粋

■米FDA

- Class I リコール: Ethicon, 完全なステープル形成ができないため, ECHELON FLEX ENDOPATH Staplersをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/ethicon-recalls-echelon-flex-tm-endopathr-staplers-failure-completely-form-staples>>
- Class I リコール: Philips Medical Systems (Cleveland), 検出器が落下する可能性のため, Forte Gamma Camera Systemをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/philips-medical-systems-cleveland-recalls-for-te-gamma-camera-system-due-potential-detector-drop>>

■カナダHealth Canada

- ULORIC (febuxostat) - 心血管の致死性転帰のリスク上昇
<<https://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2019/71511a-eng.php>>

■EU・EMA

- Referral: 局所用estradiol含有医薬品 (0.01% w/w) (Linoladiol, Linoladiol N, Linoladiol Estradiol, Estradiol Wolff, Montadiol) に関するArticle 31 referrals, PRACの勧告 (更新情報)
<https://www.ema.europa.eu/en/documents/referral/estradiol-containing-001-w/w-medicinal-products-topical-use-article-31-referral-four-week-limit-use-high-strength-estradiol_en.pdf>

■英MHRA

- 黄熱ワクチン: 免疫が低下したヒトおよび60歳以上のヒトにおける予防措置の強化
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/yellow-fever-vaccine-stronger-precautions-in-people-with-weakened-immunity-and-in-those-aged-60-years-or-older>>
- carfilzomib (Kyprolis▼): B型肝炎ウイルス再活性化のリスク
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/carfilzomib-kyprolis-risk-of-reactivation-of-hepatitis-b-virus>>

■独BfArM

- Xeljanz (tofacitinib): 血栓リスクの高い患者に使用する場合は注意すること
<https://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RV_STP/s-z/xeljanz.html>

■ニュージーランド Medsafe

- Monitoring Communication: ブランド変更後のlamotrigineに対する副作用が疑われる報告
<<https://www.medsafe.govt.nz/safety/Alerts/Lamotrigine.asp>>
- Alert Communication: 2020年5月1日に, Medicines Act 1981のSection 36下でCafergot tablets (ergotamine tartrate 1 mg / caffeine 100 mg) の販売が差し止められることに同意
<<https://www.medsafe.govt.nz/safety/Alerts/Cafergot%20Prohibited.asp>>

■医薬品医療機器総合機構

- 「ユリーフ」と「ユリノーム」の販売名類似による取り違い注意のお願い
<<https://www.pmda.go.jp/files/000232142.pdf>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<https://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供をご希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<https://www.japic.or.jp/iyaku/index.html>) の図書新着案内でもご覧いただけます。

これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。

閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著者	出版者	出版年月
British Pharmacopoeia 2020	Sir Michael Rawlins	The Stationery Office	2019年
European Pharmacopoeia 10.0 (European Treaty Series No.50)	Council of Europe	Council of Europe	2019年7月
European Pharmacopoeia 10.1 (European Treaty Series No.50)	Council of Europe	Council of Europe	2019年10月
JAID/JSC感染症治療ガイド 2019	JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会 編	一般社団法人 日本感染症学会	2019年11月
商品名・一般名からさがすジェネリック医薬品リスト 令和元年10月版	株式会社医薬情報研究所 制作	株式会社じほう	2019年9月
図解 医薬品情報学 改訂4版 (みてわかる薬学)	折井 孝男	株式会社南山堂	2019年10月

情報提供一覧

2019年12月1日～12月31日提供

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合はJAPIC 事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせください。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free https://database.japic.or.jp/	
1. 「一般用医薬品 (経済課コード)」 2019年11月分 (HP定期更新情報掲載)	12月 1日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 「JAPIC NEWS」 No.429 2020年1月号	12月27日	2. 学会演題情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (郵送、電子メール等で提供)		3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
1. 「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」 No.1211-1214	毎 週	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	5. 臨床試験情報	随 時
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	月 1 回	6. 日本の新薬	随 時
4. 「JAPIC-Q 医療機器情報サービス」	月 2 回	7. 学会開催情報	月 2 回
5. 「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」 No.4509-4528	毎 日	8. 医薬品類似名称検索	随 時
6. 「JAPIC Weekly News」 No.730-733	毎 週	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
7. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」 No.826-830	毎 週	〈iyakuSearchPlus〉 https://database.japic.or.jp/	
		1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
		2. 学会演題情報プラス	月 1 回
		3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日

外部機関から提供しているJAPICデータベース

〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉 <https://jdream3.com/>

〈株式会社日本経済新聞社から提供〉 <https://telecom.nikkei.co.jp/>

平成10年1月～平成30年12月承認分までの審査報告書の全文を収録!

日本の新薬

— 新薬承認審査報告書集 —

全97巻

◆最新の6巻を刊行。全97巻に!!

新薬67品目を追加し、全巻では1,252品目を収録。

◆新薬開発、薬事・市販後対応、医学・薬学教育に!!

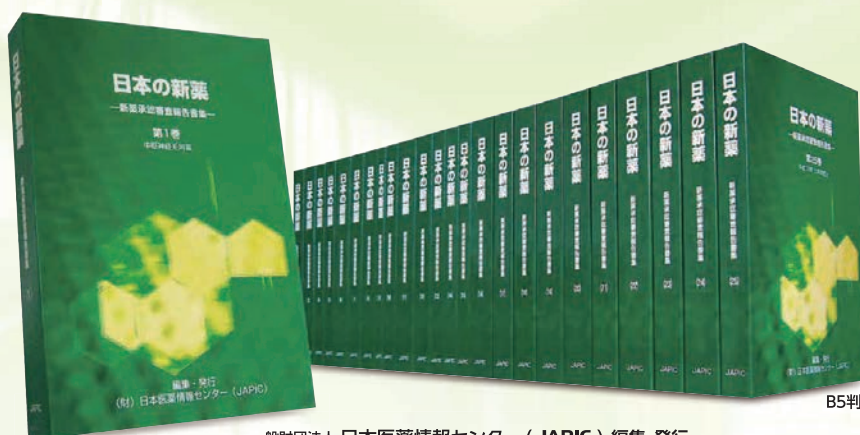
本書は、新薬の承認審査における厚生労働省の「審議結果報告書」および(独)医薬品医療機器総合機構等の「審査報告書」をすべて収録しております。

◆お得で便利なセットでの購入をお勧めします!!

各巻 **22,000円** (+税)

追加分6巻セット **66,000円** (+税)

※上記価格とは別に、JAPIC 維持会員様向けの割引価格をご用意しております。



一般財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC) 編集・発行
丸善出版 株式会社 発売

JAPIC <https://www.japic.or.jp/>

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。



このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

だんどく

「壇特」と書く。学名:Canna indica L. 英名:Indian shot. かんな科かんな属。多年生草本。カリブ諸島および熱帯アメリカ原産、日本へは江戸時代に渡来。温室では冬に開花、鮮やかな紅色の花を付ける。花びらに見えるものは雄しべが変化したもの。種子は丸く黒い。数珠玉に用いられることもある。地下茎はトリテルペン系のSwietenine(血糖降下活性)等含有。(hy)



JAPICホームページより
<https://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。